

原爆文学研究会事務局
〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1
福岡大学人文学部 中野和典研究室内
tel:092-871-6631 (代表) /e-mail:nakanok@fukuoka-u.ac.jp

第47回 原爆文学研究会のご案内

時下益々ご清栄のことと存じます。第47回原爆文学研究会を下記の要領で開催いたします。皆さまには、ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上お集まりくださいますようお願い申し上げます。

会場・資料の準備の都合もありますので、参加をご希望の方は**2015年2月28日(土)までに北九州高専・楠田剛士研究室(※詳細右下)**までご連絡ください。

記

- 期 日：2015年3月7日(土)、8日(日)
- 会 場：長崎大学環境科学部大会議室(長崎市文教町1-14 長崎大学環境科学部棟1階)
- プログラム

【1日目】3月7日(土) 14:00~18:00

- | | | |
|-------|---|-------|
| 13:30 | 開場 | |
| 14:00 | 開会・自己紹介 | |
| 14:20 | ジェノサイドとしてのシベリア抑留——長谷川四郎「小さな礼拝堂」論 | 石川 巧 |
| 15:50 | 休憩 | |
| 16:10 | "Protest and Survival?"——イギリス非核武装運動と"When the Wind Blows" | 高山 智樹 |
| 17:40 | 事務局より | |
| 18:00 | 1日目閉会 | |
| 18:30 | 懇親会 | |

【2日目】3月8日(日) 10:00~16:20

- | | | |
|-------|--|-------|
| 9:30 | 開場 | |
| | 「戦後70年」連続ワークショップV 原爆文学「古典」再読2—佐多稲子『樹影』 | |
| 10:00 | 司会者より | 松永 京子 |
| 10:20 | 発題1 | 坂口 博 |
| 10:40 | 発題2 | 村上 陽子 |
| 11:00 | 全体討論 | |
| 12:00 | ワークショップV終了・休憩 | |

「戦後70年」連続ワークショップVI 長崎原爆と復興の言説

- | | | |
|-------|-----------------------|--------|
| 13:00 | 司会者より | 楠田 剛士 |
| 13:10 | 報告1 長崎原爆の復興をめぐる詩と記録 | 楠田 剛士 |
| 13:40 | 報告2 「浦上五番崩れ」としての原爆 | 篠崎 美生子 |
| 14:10 | 報告3 長崎の戦災復興事業と平和祈念像建設 | 新木 武志 |
| 14:40 | 休憩 | |
| 14:55 | コメント | 桐谷 多恵子 |
| 15:10 | 全体討論 | |
| 16:00 | ワークショップVI終了・事務局より | |
| 16:20 | 2日目終了 | |

※「戦後70年」連続ワークショップは、科学研究費(基盤B)「核・原爆と表象/文学に関する総合的研究」(研究課題番号:26284038 代表:川口隆行)との共催事業になります。

【趣意文】「戦後70年」連続ワークショップV 原爆文学「古典」再読2—佐多稲子『樹影』

このワークショップは第45回研究会(2014・8)で行った「古典」再読1に連なるものである。今回のテキストは佐多稲子『樹影』。このテキストがなぜ今日にいたるまで読みつがれてきたのか、また「戦後70年」を超えて読みついでいくべきどのような可能性を持っているのか、今回も研究分野の枠を越えて語り合いたい。司会者(松永京子)が『樹影』とその作者について概要を示し、2人の発題者(坂口博・村上陽子)がそれぞれの視点から受容史の整理と問題提起を行った上で、会場全体で討論を行う。

【趣意文】「戦後70年」連続ワークショップVI 長崎原爆と復興の言説

これまで原爆文学研究会では、長崎原爆について、小説・詩・戯曲・評論の分析、都市開発と被爆の記憶、占領下の宗教者の原爆意識、詩・絵画に結びついた平和運動、被爆証言を語ること・聞くことなど、多様なテーマを取り上げてきた。その中でも、永井隆の言説の功罪と被爆者の表現の在り方については度々議論されている。1945年から50年代の永井や被爆者の言葉は、被爆から復興に向かう時期に発せられたものであるため、被爆という出来事をどのように記憶し、現在の状況をどう把握するかということはもちろん、未来をどのように描くか、という問題も喚起する。今回のワークショップでは長崎の復興を事例として、復興の語りがはらむ問題を広く考える機会としたい。

まず三人の報告者から問題提起を行う。楠田剛士は、被爆者による詩や生活記録について、篠崎美生子氏は、永井隆と宗教、および昭和天皇をめぐる言説について、新木武志氏は、戦災復興のなかで原爆と「平和」とがどのように結びつけられていったのかについて、それぞれ報告する。その後、戦後広島・長崎の復興史が専門の桐谷多恵子氏にコメントをしていただき、広島復興や福島復興の問題へと展開していきたい。

会場のご案内



【長崎大学文教キャンパス】

JR長崎駅から

- ・路面電車 「長崎駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学前」下車
- ・長崎バス 「長崎駅前」→(1番系統「溝川」, 「上床」, 「上横尾」行き)→「長崎大学前」下車

JR浦上駅から

- ・路面電車 「浦上駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学前」下車
- ・長崎バス 「浦上駅前」→(1番系統「溝川」, 「上床」, 「上横尾」行き)→「長崎大学前」下車

長崎空港から

- ・県営バス「長崎空港4番のりば」→(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「長大東門前(旧:長大裏門前)」下車

申込み先詳細

第47回原爆文学研究会への参加をご希望の方は**2015年2月28日(土)までにeメールかお電話**で下記までお申し込み下さい。なお、申し込む際には①「1日目研究会」、②「懇親会」、③「2日目研究会」のそれぞれについて参加/不参加を明記してください。

【申込み先】

北九州工業高等専門学校総合科学科・楠田剛士研究室

eメール kusuda●kct.ac.jp (※「●」を「@」に替えて送信してください)

電話 093-964-7318